

日本神経内分泌学会 評議員会・総会

日 時：2017年10月21日（土）13：10～13：40

場 所：北里大学相模原キャンパス L2号館 4F409号室（第1会場）

【議題】

1. 2016年度庶務報告 [報告事項]
2. 2016年度決算、2017年度見込及び2018年度予算案の件 [審議事項]
3. 2017年度名誉会員、功労評議員、評議員再任、新評議員の件 [審議事項]
4. 2017年度特別功労賞、学会賞、川上賞、若手研究人フェロー助成金、若手研究奨励賞（YIA）、臨床神経内分泌優秀賞について [審議/報告事項]
5. 第46回（2019年度）学術集会会長の件 [審議事項]
6. 第45回（2018年度）学術集会の準備状況 [報告事項]
7. 神経内分泌学テクニカルスクールの開催概要 [報告事項]
8. その他 [報告事項]
 - 1) 第8回脳科連評議員会
 - 2) e-Newsletter (No. 24) の発刊

評議員会・総会の開会にあたって中里 雅光 理事長より出席人数の確認があり、定款第21条及び第26条の定足数（評議員会62名、総会149名）を満たす出席者（評議員会75名、総会201名、委任状を含む）があることから、本評議員会・総会は成立する旨の報告があった。

引き続き定款24条により、議長に高野 幸路 学術集会会長（国際・広報担当常務理事）が選出され、高野会長の司会により議事が進められた。

1. 2016年度庶務報告 [報告事項]

小澤庶務担当常務理事より、2016年度の庶務報告として、会員の異動状況、第43回学術集会（10月14日～15日：浜松）、評議員会・総会（10月14日：浜松）、理事会（4月21日：京都、10月13日：浜松）並びに会誌の発行（e-Newsletter December, 2016: No. 23 Web発行）が報告された。

2. 2016年度決算、2017年度見込及び2018年度予算案の件 [審議事項]

有馬会計担当常務理事より、前日の理事会において承認されている2016年度収支決算に関して、収入の部において、正会員及び賛助会員会費収入は減少したものの、学術集会会長校よりの繰越金納入（本収入は特別会計として事務局にて別途積立）により当期収入が予算を約57万円上回ったこと、一方、支出の部において、共催金や寄付金の発生があったものの、大口のINF分担金が発生しなかったことなどにより、当期支出が予算を約82万円下回ったこと、その結果として、約117万円の黒字決算となったことが報告された。また、川上賞基金と学術集会繰入金収入を除く2016年度末の純繰越金は8,988,425円となり、2015年度末より約40万円の増加となることが報告された。

中里理事長より、欠席の汾陽、松野両監事に代り、「決算は適正に執行されていることを確認した」との監査報告があり、第43回学術集会の収支報告を含む2016年度の決算は満場一致で承認された。

続いて、同常務理事より、前日の理事会で承認されている 2017 年度収支見込及び 2018 年度予算について説明があった。2017 年度について、収入の部では前年度未納分を含めた賛助会員会費の増額が発生すること、支出の部では学術賞副賞の在庫切れによる注文、会議開催費、INF 分担金、テクニカルスクールへの補助金などの支出増により、収支差益として約 79 万円の赤字決算を見込むこと、また、川上賞基金と学術集会繰入金収入を除く 2016 年度末の純繰越金見込み額は 8,512,765 円となることが報告された。2018 年度については、2017 年度の実績と見込みをベースに収入・支出を予算化し、約 12 万円の小幅赤字収支を予想しているとの報告があり、2016 年度決算見込および 2017 年度予算は満場一致で承認された。

3. 2017 年度名誉会員、功労評議員、評議員再任、新評議員の件 [審議事項] 名誉会員推薦

前日の理事会で承認されている名誉会員の選考について、小澤庶務担当常務理事より、石橋 みゆき 功労評議員（築根クリニック副院長）、加藤 幸雄 会員（明治大学生命科学科遺伝情報制御学教授）、佐久間 康夫 功労評議員（東京医療学院大学学長）、芝崎 保 功労評議員（秩父病院内科）、須田 俊宏 功労評議員（青森労災病院名誉院長兼顧問）、本間 研一 功労評議員（北海道大学大学院医学研究科統合生理学講座教授）、森 昌朋 功労評議員（医療法人社団三思会北関東肥満代謝研究所所長）を推薦したいとの報告があり、満場一致で承認された。

功労評議員推薦

前日の理事会で承認されている功労評議員の選考について、同常務理事より、加治 秀介 評議員（兵庫県立大学生体機能学 教授）、関屋 健策 評議員（関屋内科）、屋代 隆 評議員（自治医科大学解剖学講座組織学部門教授）、山田 久夫 評議員（関西医科大学解剖学第一講座教授）を推薦したいとの報告があり、満場一致で承認された。

評議員再任

前日の理事会で承認されている評議員の再任について同常務理事より報告があり、以下の 25 名の再任（任期：2017 年総会日～2021 年総会日）が満場一致で承認された。

在原 善英	有馬 寛	飯島 典生	石井 新哉	石井 寛高
井上 達秀	上田 陽一	臼井 健	大塚 文男	大畠 久幸
沖 隆	佐藤 文俊	梶村 益久	鈴木 眞理	田中 雅樹
中里 雅光	西原 真杉	牧野 晋也	松野 彰	南 史朗
箕越 靖彦	村瀬 孝司	山田 正信	山本 繁樹	由利 和也

新評議員推薦

前日の理事会で承認されている新評議員の推薦について、同常務理事より報告があり、2 名の就任が満場一致で承認された。

大月 道夫	大阪大学大学院医学系研究科内分泌・代謝内科	臨床分野
高橋 明義	北里大学海洋生命科学部	基礎分野

4. 2017 年度特別功労賞、学会賞、川上賞、若手研究帝人ファーマ助成金、手研究奨励賞（YIA）、臨床神経内分泌優秀賞について [審議/報告事項]

特別功労賞

高野会長より、選考委員会の審査、答申を受けて本年4月21日の理事会で審議した結果、高原 二郎 名誉会員（内海病院内科）、高橋 迪雄 名誉会員（株式会社グローバルニュートリショングループ）の2名を選出したいとの提案があり、満場一致で承認された。

学会賞

中里理事長より、選考委員会の審査、答申を受けて、本年4月21日の理事会で審議した結果、井樋 慶一 理事（東北大学大学院情報科学研究科情報生物学分野教授、同医学系研究科神経内分泌学分野教授兼任）を受賞者に決定したとの報告があった。

川上賞

評議員会・総会欠席の上田副理事長に代って高野会長より、選考委員会の審査、答申を受けて、本年4月21日の理事会で審議した結果、藤原 研 会員（自治医科大学医学部解剖学講座組織学部門）を受賞者に決定したとの報告があった。

若手研究帝人ファーマ助成金

高野会長より、選考委員会の審査、答申を受けて、本年4月21日の理事会で審議した結果、肥後 心平 会員（日本医科大学大学院医学研究科解剖学・神経生物学）受賞者に決定したとの報告があった。

若手研究奨励賞

高野会長より、5名の応募者の中から、本日午前の口演審査とその後の選考委員会での厳正なる審査を経て、伊澤 俊太郎 会員（名古屋大学大学院環境医学研究所神経系分野2）、金子 賢太郎 会員（京都大学大学院医学研究科メディカルイノベーションセンター）の2名を受賞者に決定したことが報告された。

臨床神経内分泌優秀賞

高野会長より、今年度創設の臨床神経内分泌優秀賞には9名の応募があり、本学術集会2日目の発表審査を経て受賞者（2-3名を予定）が決定され、表彰されることが報告された。

5. 第46回（2019年度）学術集會会長の件 [審議事項]

中里理事長より、前日の理事会において承認されている前多 敬一郎 将来計画・関連領域担当常務理事（東京大学大学院農学生命科学研究科獣医学専攻）を2019年度学術集會会長に推挙したいとの提案があり、満場一致で承認された。

6. 第45回（2018年度）学術集會の準備状況 [報告事項]

会長の小澤庶務担当常務理事より、10月27日～28日に、日本医科大学千駄木キャンパスを会場とする学術集會の準備状況が報告され、「神経内分泌学の今、そして未来への橋渡し」をメインテーマに、日本下垂体研究会や日本行動神経内分泌研究会との連携シンポジウム（調整中）をベースに、一般演題を中心に中身の充実した集會にしたいとの抱負が述べられた。

7. 神経内分泌学テクニカルスクールの開催概要 [報告事項]

小澤庶務担当常務理事より、本年11月25、26日の土日2日間、日本医科大学（主任：小澤庶務担当常務理事）と東京大学（主任：前多将来計画・関連領域担当常務理事）の施設を用いたテクニカルスクールの開催概要が報告された。参加定員10人、参加費用2万円

で、形態学的、生理学的両研究の講義と実技演習が行われる。現在、まだ受付枠に余裕があるので若手研究者、学生を中心に是非ご参加いただきたいと述べられた。

8. その他 [報告事項]

第8回脳科連評議員会

中里理事長より、Brain Science の進展を期待して設立された「脳科連」活動の紹介の一環として、第8回評議員会の議決、報告の各事項が紹介された。

- ・ 議決事項：日本アルコール・アディクション医学会、日本磁気共鳴医学会、日本神経心理学会、日本神経放射線学会の加入承認
- ・ 報告事項：脳科学オリンピックへの寄附、「脳科学リテラシー委員会」の設置、脳科連提言「理化学研究所における脳科学への期待」、日本学術会議「マスタープラン 2017」、日本学術会議提言案「脳科学における国際連携体制の構築、精神・神経疾患の治療法開発における産官学連携のあり方」

e-Newsletter (No.24) の発刊

高野会長より、学会ホームページ上へ Web 掲載される会誌の e-Newsletter について、今年度号（第 24 号）を本年 12 月に発刊予定であること、ウェブサイトへの掲載完了をメールにて学会事務局から会員に知らせること、が報告された。

中里理事長より、昨日の理事会における議論として、以下の 2 点が紹介された。

- 1) 800 万円を超える繰り越し財源を学会活動、特に、若手学術研究の推進と活性化に向けて、積極的、且つ、有効に使用していくこと。例として、今年度はテクニカルスクールを立上げ、20 万円の補助を出してバックアップすること。また、今後に向けて会員の先生方からのアイデアを募集したいこと。
- 2) 本学会の研究ジャンルを拡げ、活動をより一層活性化していくための方策の一つとして、評議員の申請要件を見直すこと。会員歴 3 年以上との要件は踏襲するものの、10 編以上の論文の内、筆頭 3 編以上の要件を 2 編以上に減じること、これまでの業績だけでなく今後の学会への貢献やアクティブな活躍が期待できる人材を求めていくことを選考規準に加えること。以上の観点で評議員の申請内規を見直し、ホームページに公開すること。

最後に、2019 年度の第 46 回学術集会に決まった前多常務理事の挨拶があり、関連学会の日程を勘案しながら 10-11 月の週末を念頭に慎重に会期を決め、話題を比較内分泌生理学へも拡げていきたいとの抱負が述べられた。

以上

(理事長、常務理事校閲済)